

揖斐川町介護サービス事業経営戦略

令和8年度～令和12年度

- 1 はじめに
- 2 事業概要
- 3 将来の事業環境等
- 4 経営の基本方針
- 5 収支計画
- 6 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

令和8年3月

1 はじめに

老人保健施設「山びこの郷」は、久瀬地域に位置しており、入所、短期入所、通所リハビリテーションの介護サービス事業を行っています。

デイサービスセンターは、「谷汲デイサービスセンター」、「春日デイサービスセンター」、「坂内デイサービスセンター」の3か所が、谷汲地域、春日地域、坂内地域に設置されています。

現在、揖斐川町の65歳以上高齢者数は7,608人、高齢化率は42.0%（令和7年4月末現在）で、特に老人保健施設やデイサービスセンターがある地域は高齢化率が高い地域になっています。

平成17年1月に1町5村が合併し、平成18年度から指定管理制度を導入し、令和7年度現在老人保健施設「山びこの郷」は公益社団法人地域医療振興協会、「谷汲デイサービスセンター」は社会福祉法人大和社会福祉事業センター、「春日デイサービスセンター」、「坂内デイサービスセンター」は社会福祉法人揖斐川町社会福祉協議会を指定管理者に指定しています。

高齢者が介護が必要な状態になっても、引き続き住み慣れた地域で暮らすことができるようにするため、または、安心して暮らし続けることができるためには、地域内にサービスを提供できる事業所が存在することが必要不可欠です。

老人保健施設「山びこの郷」は令和5年度から令和9年度までの5年間は公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者として指定、令和8年度からは新たに「谷汲デイサービスセンター」を社会福祉法人大和社会福祉事業センターに、「春日デイサービスセンター」、「坂内デイサービスセンター」は社会福祉法人揖斐川町社会福祉協議会を令和10年度までの3年間で指定管理者に指定します。

人口減少・高齢化が進む地域において、今後も安定した事業運営を行う見通しを立てるため、令和3年に策定した揖斐川町介護サービス事業経営戦略の計画期間終了に伴い、改定するものです。

2 事業概要

揖斐川町は、老人保健施設「山びこの郷」、デイサービスセンター（谷汲デイサービスセンター、春日デイサービスセンター、坂内デイサービスセンター）を継続することによって、高齢者が介護や支援が必要になっても住み慣れた地域で暮らすことができるように、介護保険法（平成9年法律第123号）の規定による介護老人保健施設、通所介護に係るサービスを提供しています。

(1) 事業形態など

事業の内容	法適・非適 の区分	施設名称	所在地	建物	延床面積	定員	開始年月
老人保健施設	非適	山びこの郷	揖斐川町東津汲877番地1	鉄筋コンクリート3階建	2581.65㎡	入所 短期入所 59名 通所 30名	平成10年4月
老人デイサービスセンター	非適	谷汲デイサービスセンター	揖斐川町谷汲名礼289番地1	木造平屋建	564.14㎡	30名	平成28年2月
老人デイサービスセンター	非適	春日デイサービスセンター	揖斐川町春日六合3420番地	鉄筋コンクリート平屋建	284.15㎡	18名	平成9年4月
老人デイサービスセンター	非適	坂内デイサービスセンター	揖斐川町坂内広瀬310番地3	鉄筋コンクリート平屋建	361.6㎡	15名	平成9年3月

(2) 現在の利用状況

老人保健施設（一日平均利用者数）（単位：人）

	定員	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入所	59	48	48.4	46.9
短期入所		7.1	6.7	7.1
通所	30	20.1	17.9	19.4

デイサービスセンター利用延べ人数（単位：人）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
谷汲	4,394	3,432	2,645
春日	2,910	3,150	3,151
坂内	2,701	2,368	1,358
合計	10,005	8,950	7,154

デイサービスセンター1日当たり利用者数（単位：人）

	定員	利用者数
谷汲	30	8.6
春日	18	13.4
坂内	15	5.6
合計	63	27.6

（令和6年度実績）

老人保健施設の入所・短期入所を合わせた定員は59人、令和4年度から令和6年度までの1日平均利用者数は約55人となっています。

老人保健施設の場合、在宅復帰率を重視すると入所者数が減少し、代わって短期入所が増える傾向にあります。

デイサービスセンターの利用延べ人数は、春日が増加している一方で谷汲と坂内は大幅に減少しています。

谷汲デイサービスセンターは、定休日は日曜日のみで、送迎についても谷汲地域に限らず、久瀬地域、揖斐川地域、池田町まで範囲を広げていますが、利用者は減少しています。

春日デイサービスセンターは、揖斐川地域、池田町まで送迎範囲を広げています。

坂内デイサービスセンターは、利用者は坂内地域のみの方で、利用者は減少しています。

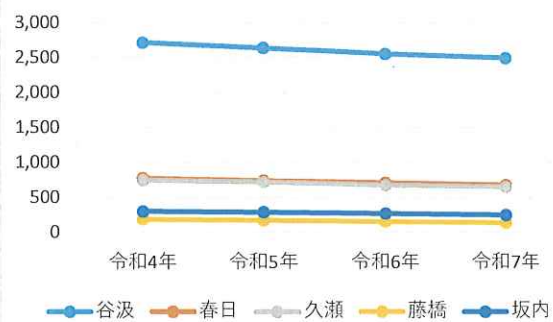
谷汲、春日、久瀬、坂内地域は高齢化率は年々高くなっていますが、高齢者の人口は減少しています。この人口減少が利用者数の減少の一因にもなっていると考えます。

人口推移 (単位：人)

地区名	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
揖斐川	14,770	14,440	14,196	13,890
谷汲	2,720	2,641	2,559	2,498
春日	777	740	711	680
久瀬	752	723	680	657
藤橋	190	174	157	142
坂内	301	290	271	251
合計	19,510	19,008	18,574	18,118

各年4月末時点

旧村地区の人口推移

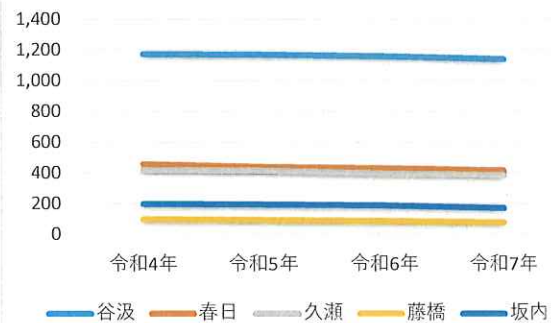


高齢者数推移 (単位：人)

地区名	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
揖斐川	5,449	5,429	5,433	5,409
谷汲	1,175	1,170	1,160	1,141
春日	458	439	432	417
久瀬	421	417	398	387
藤橋	100	94	88	80
坂内	201	196	190	174
合計	7,804	7,745	7,701	7,608

各年4月末時点

旧村地区の高齢者数推移

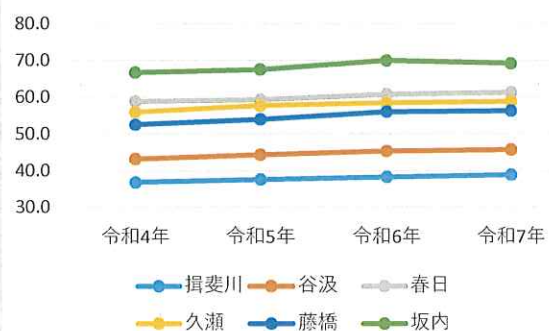


高齢化率推移 (単位：%)

地区名	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
揖斐川	36.9	37.6	38.3	38.9
谷汲	43.2	44.3	45.3	45.7
春日	58.9	59.3	60.8	61.3
久瀬	56.0	57.7	58.5	58.9
藤橋	52.6	54.0	56.1	56.3
坂内	66.8	67.6	70.1	69.3
合計	40.0	40.7	41.5	42.0

各年4月末時点

地区別高齢化率推移



(3) これまでの主な経営健全化の取組

平成18年4月1日から指定管理制度を導入しており、老人保健施設「山びこの郷」については、公益社団法人地域医療振興協会が、「谷汲デイサービスセンター」は社会福祉法人大和社会福祉事業センター、春日及び坂内デイサービスセンターについては、社会福祉法人社会福祉協議会が指定管理者として管理運営し、現在に至っています。

3 将来の事業環境等

(1) 介護保険サービス事業における主な取組

老人保健施設「山びこの郷」は町内にある唯一の老人保健施設であり、住み慣れた地域での生活を継続、在宅復帰の不安解消ができる施設となっています。また、3か所のデイサービスセンターについては、町の中心部から離れたところに位置する施設であり、他の介護保険事業所が存在しないため、当施設は、地域住民が心身ともに健康で過ごすためにはなくてはならない施設となっています。

揖斐川町においては、高齢者が介護や医療が必要になっても、いつまでも住み慣れた地域の中で自分らしい暮らしができるように、地域包括ケアシステムの確立を目指しています。

(2) 高齢者人口等の予測

過去の人口推移からみても、今後人口減少は明らかで、65歳以上の人口も減少していきます。

(3) 利用者の予測

老人保健施設「山びこの郷」は、他の地域からの利用者も見込めるため、人口が減少しても利用者数は大きく変わらないと考えます。

3か所のデイサービスセンターは今後利用者数が減少していくと考えます。

(4) 建物や備品の老朽化問題

◎近年の修繕・工事と備品購入

老人保健施設「山びこの郷」は平成10年建築、鉄筋コンクリート造で、久瀬診療所に併設されています。経年劣化もあり、大規模な修繕が年々増えています。

デイサービスセンターについては、春日・坂内は平成9年建築、鉄筋コンクリート造です。谷汲は平成28年建築、木造です。

工事・修繕については、施設の経年劣化があり、近年、大型修繕・工事等の必要個所が増えてきています。備品整備については、リハビリ機器等の医療専門機器の整備を要する為、購入費や修繕費には高額な費用がかかり、当町の財政的負担も今後ますます増加していくものと考えます。

施設名	年度	修繕・工事		備品	
		件数	金額(円)	件数	金額(円)
谷汲デイサービス	令和4年度	—		—	
	令和5年度	—		—	
	令和6年度	—		—	
春日デイサービス	令和4年度	—		—	
	令和5年度	1	786,500	—	
	令和6年度	—		—	
坂内デイサービス	令和4年度	—		—	
	令和5年度	—		—	
	令和6年度	—		—	
山びこの郷	令和4年度	1	4,296,600	—	
	令和5年度	1	4,697,000	—	
	令和6年度	—		—	

4 経営の基本方針

揖斐川町は平成17年1月に1町5村が合併しました。合併当時26,711人(H17.1.31)だった人口は18,118人(R7.4.30)に減少、高齢化率は26.0%から42.0%へと増加しており、今後も一層高齢化が進んでいくことが予想されます。

このような中、地域において介護サービスを安定的、継続的に提供できる体制を整備するため、平成18年度から老人保健施設、デイサービスセンターについて指定管理制度を導入し、経営の健全化を図ってまいりました。

老人保健施設においては、地域介護・医療施設の運営に経験豊富な事業所に、デイサービスセンターにおいては地域の実情を熟知した事業所に指定管理をしています。このことから、地域医療・地域福祉の向上と利用者の利便に寄与するところが大きく、また、利用料金制により民間事業者のノウハウを生かした公共サービスの向上とコスト削減を図っています。

しかしながら、人口減少が進む山間地域の介護施設においては、利用者の減少やスタッフ確保の問題が課題となっています。

今後も地域住民が住み慣れた地域で、安心して暮らすことができるために、現在の介護施設の運営を継続することを基本方針としつつ、効率的な施設運営を目指し、経営方法の具体的内容まで踏み込んだ協議を指定管理先と進めていきます。

また、施設の老朽化に伴い修繕費用が必要となってきますが、多額の改修費が発生しないよう定期的な点検と修繕への早期対応を行いながら、今後も高齢者を取り巻く環境等を見据え、指定管理者が安定した運営を行えるよう適切な対応をしていきます。

施設の老朽化、人材の確保の困難さが増大していく中、福祉施設運営に高いノウハウを有する社会福祉法人への移譲も検討してまいります。

5 収支計画

(1) 収支計画の策定にあたっての説明

老人保健施設、デイサービスセンターともに介護サービス収入で運営しています。

老人保健施設「山びこの郷」については、人口は減少するものの、宿泊を伴う入所・短期入所においては、近隣町からの利用者があることが予測され、収入及び支出についてほぼ横ばいであると推測できます。ただし、人件費は年々増加していくことが予測され、介護報酬改正の影響や社会情勢の変化などを考慮しながら、収支計画の健全化を図っていきます。

3か所のデイサービスセンターについては、今後利用者数の減少に伴い介護サービス収入が減少し、収支のバランスがますます不均衡になることが予測されます。

(2) 収支計画に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

町では、高齢者が介護や医療が必要になっても、住み慣れた地域の中で自分らしい暮らしができるよう、地域包括ケアシステムの確立を目指しています。そのためにも、指定管理者制度の導入により、老人保健施設、デイサービスセンターを継続運営していくことが必要不可欠であると考えます。

今までにも大規模な工事等を行い施設の維持管理を行ってきましたが、今後も事業継続が必要と判断する施設においては、事業運営に影響を及ぼす故障等が発生及び発覚した際には、指定管理者との協定に基づき、修繕等を行い、利用者が生き生きと過ごすことができる快適な施設を目指します。

またデイサービスセンターにおいては、開設地域の人口減少、高齢者数の減少、利用者数の減少が予測されます。そのため、今後のあり方について次のとおり考えます。

(現 状)

①谷汲デイサービスセンター

利用定員が現在30名だが、現在の利用平均は1日当たり25名以下の状況。

谷汲地域は地理的条件（送迎の利便性等）がよく、町外のサービス提供事業所を利用される方も多い。

②春日デイサービスセンター

利用定員が現在18名だが、現在の利用平均は1日当たり15名以下の状況。

春日地域へは民間のサービス提供事業所も参入している。事業所によっては、春日全地域送迎範囲として事業展開している。

③坂内デイサービスセンター

利用定員が現在15名だが、現在の利用平均は1日当たり10名以下の状況。

坂内地域へは距離的に送迎が困難で、他の民間事業所の参入はない。

(今後検討事項)

①谷汲・春日・坂内 各デイサービスセンターの人員基準の見直し

②春日・坂内については、営業日を隔日にする等、日数の調整を行い、2か所のデイサービスセンターを職員が兼務し、人件費の削減等を行う。

③谷汲については、施設の特徴（炭酸ガス風呂等）をPRし、町以外からの利用者受け入れにも力を入れる。

デイサービスセンターは令和7年度現在、谷汲は社会福祉法人大和社会福祉事業センターが、春日と坂内は揖斐川町社会福祉協議会が管理運営していますが、毎年の実績を踏まえ、利用者の利便性も考慮しながら、今後のデイサービスセンターの運営方法について協議を行っていきます。

高齢福祉を取り巻く環境が大きく変化していく中、施設の統合・縮小・廃止については積極的に検討し、運営に高いノウハウを有する社会福祉法人に移譲することも選択として視野に入れて、更なる民間活力を導入してまいります。

指定管理協定に基づき、資金管理・調達・繰入金に関することや職員給与の適正化等についても年度毎に確認し、財源・経費の在り方について一層注力していきます。

6 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

揖斐川町介護サービス事業経営戦略（令和3年度～令和7年度）に基づき、当該地域においての人口減少・高齢化の進展等の課題に対して事業運営の見通しを立て経営戦略を行ってきました。

第1期介護サービス事業経営戦略期間中、人口減少はさらに進み高齢化率も上昇しました。

揖斐川町の介護老人保健施設、通所介護施設についても影響を受けており、特に旧村部に存在する通所介護施設については、経営できる限界に達している状態です。

地域包括ケアシステムの深化、推進の方針のもと、当初の基本理念を継承し、地域の実情に応じた経営を実施していくものでありますが、同時に施設の統合・廃止・縮小を真剣に論議する時期に来ていることは否定できません。

今後は施設を社会福祉法人に移譲することも積極的に検討することにより、地域の期待に応える施設経営を行うため、揖斐川町介護サービス事業経営戦略を改定します。